

MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No. 84

ホームページ ● <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

発行日 ■ 平成23年3月 発行 ■ 東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16 TEL. 018(836)2192



森吉山の樹氷

トピック

特集

「平成22年度森林計画策定の概要」

計画課

美しい森林づくり(地域発案システムの取組)

「先人の遺産である庄内砂丘クロマツ林等の保全活動」

庄内森林管理署

我が署の隠れた名所

「出来島の最終氷期埋没林」

津軽森林管理署金木支署



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



2011・国際森林年

平成22年度の森林計画策定の概要

計画事項	計 画 量 等			
	東 青	北上川上流	宮城南部	子 吉 川
計画期間	H23. 4. 1~H28. 3. 31			
伐採量	837,000㎡	369,000㎡	221,000㎡	228,500㎡
主 伐	431,000㎡	70,000㎡	65,000㎡	67,540㎡
間 伐	406,000㎡	299,000㎡	156,000㎡	160,960㎡
更新量	1,218ha	402ha	214ha	145ha
人工造林	784ha	386ha	208ha	64ha
天然更新	434ha	16ha	6ha	81ha
保育量	1,895ha	1,502ha	864ha	560ha
下 刈	1,677ha	1,370ha	720ha	247ha
つる切・除伐	218ha	132ha	144ha	313ha
林道開設	34,100m	23,647m	11,700m	14,590m
治山保全施設	42箇所	18箇所	44箇所	14箇所

特集コーナー

平成22年度
森林計画策定の概要



当局では、管内17森林計画区について、「森林の伐採・造林・整備」などの森林の取扱いを計画的に実施するため、毎年度、3〜4森林計画区づつ5年毎に10年を一期とした森林計画を策定しています。

策定に当たっては、前年度に開催

した住民懇談会での有識者や当該森林計画区内の地域住民からの意見や要望を踏まえ、森林計画（案）を作成します。その後、30日間の公告縦覧を行い、広く国民の皆様から意見をお聴きし、これらの案や意見を有識者からなる検討委員会において検討頂き策定しています。今年度も3月7日に森林計画の検討委員会を開催したところです。

なお、今年度からは、計画に対する実行結果や地球温暖化防止対策、生物多様性保全、森林レクリエーションや保健休養などの取り組み概要について、計画書に記載、公表し、国民の皆様に対して分かり易く情報を提供することとして努めています。

今回森林計画を樹立・変更した計画区は図のとおりです。

本稿では、来年度から新しい森林計画の下で管理経営していく東青（青森県）、北上川上流（岩手県）、

宮城南部（宮城県）子吉川（秋田県）の四森林計画区における森林計画区の特徴をご紹介します。



1 東青森林計画区

青森県の北西部に位置する東青森林計画区内の国有林野は68,244haです。

当計画区は、標高700m前後の山々が脊梁をなしている津軽半島の陸奥湾に面した地域、奥羽山脈北端部の八甲田山周辺地域及びその山麓から陸奥湾に面した平内、夏泊半島周辺地域に位置し、ブナ等広葉樹とヒバとが混交する天然林が約62%を占めています。

従来よりヒバ等の豊かな森林資源を利用した木材加工業が発達し、地

域の重要な産業となっております。

計画区内の国有林には、市町村の水道用水や農業等産業用水の水源域が多くあります。また、優れた景勝地や自然環境を有しており、十和田八幡平国立公園、津軽国定公園、県立自然公園及び自然環境保全地域としての指定も多く、森林浴、キノコ・山菜の採取等、森林レクリエーション、保健休養の場として多くのの人々に利用されています。



新緑の八甲田

2 北上川上流森林計画区

岩手県のほぼ中央部に位置する北上川上流森林計画区内の国有林野は62,342haです。

当計画区は、計画区内を南北に流れる北上川を境に、東部を北上高地地域、西部を奥羽山脈地域としており、秋田県境には乳頭山、駒ヶ岳などの山地群が連なり、また、大きな山麓をもつ岩手山を要しています。山岳部はブナを主とする天然林が多く、その下方ではスギ、アカマツ、カラマツ人工林となっており、特に、北上川沿いに点在する丘陵地帯は御堂マツと称される天然アカマツ優良材の生産地となっています。



奥羽山脈緑の回廊（千沼ヶ原）

また、豊かな森林資源を利用した木材加工業が発達しているほか、キノコや山菜を利用した食品加工業も地域の重要な産業となっています。計画区内の国有林には、奥羽山脈地域、北上高地地域とも稜線から市

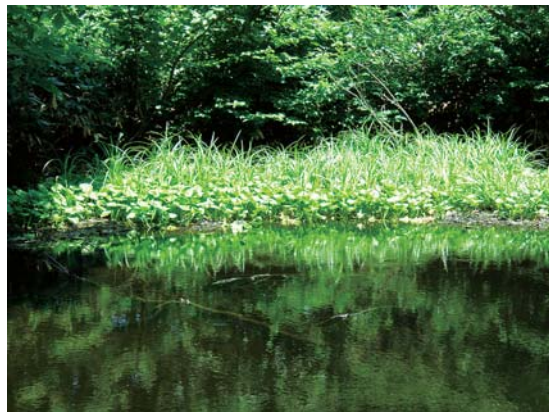
街地へと続く河川が多くあります。優れた景勝地や自然環境を有しており、十和田八幡平国立公園、外山早坂高原県立自然公園をはじめ、県指定の自然環境保全地域や葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域及び自然休養林等にも多く指定されています。温泉、渓谷、豊かな森林景観など豊富な観光資源に恵まれていることから、スキーや登山など森林を利用したレクリエーション・保健休養の場として多くの人々に利用されています。

3 宮城南部森林計画区

宮城南部森林計画区内の国有林野は55,299 haです。

当計画区は、山形県境に接する奥羽山脈に連なる山岳地帯、その下部に散在する丘陵地帯、阿武隈山系の内陸部に散在する丘陵地帯及び太平洋沿岸に広がる海岸地帯に区分され、主な山岳は、船形山、面白山、刈田岳、屏風岳、不忘山等があります。これら山岳を源とする主な河川は、七北田川、名取川、白石川（阿武隈川）等があり、多くの支流を集めて東流し、太平洋に注いでいます。東部を流れる阿武隈川は、福島県の三本槍岳のすぐ北、甲子旭岳に源を発し、郡山盆地、福島盆地を流れて宮城県

に入り、仙台湾に注いでいます。山岳地帯はブナ等広葉樹を主とする天然林が多く、一部アオモリトドマツ、コメツガ、ハイマツ等の針葉樹天然林が見られます。丘陵地帯は、スギ、アカマツ、ヒノキを主とする人工林で占められ、海岸地帯ではクロマツを主とする天然林が過半を占めています。



船形山植物群落保護林内のヒメカイウ

計画区内の国有林は、仙台市をはじめとする水道の水源の最上流部に位置しています。また、優れた自然景観を有する地域も多く、その大部分が蔵王国立公園等の自然公園、仙台市近郊の丘陵地帯は自然探勝、自然観察等の自然休養林・自然観察教育林・阿武隈川渓谷県立自然公

園・仙台自然休養林等に指定されており、都市部からの交通の便も良好なことなどからスキー場等野外レクリエーション、保健休養の場として多くの人々に利用されています。

4 子吉川森林計画区

秋田県の南西部に位置する子吉川森林計画区内の国有林野は22,924 haです。

当計画区は、出羽山地の脊梁より日本海側の地域、鳥海山や丁岳等の北側及びこれらの山麓から日本海沿岸部に至る地域に位置し、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊に指定され、ブナ等の広葉樹が生育する天然林が約60%を占めています。



鳥海山と桑ノ木台湿原

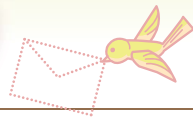


検討委員会の様子

計画区内の国有林は、主に鳥海山及び子吉川の各支流の源流部等の重要な水源地帯に位置しています。また、水林地区生活環境保全林をはじめとする日本海沿岸のクロマツ海岸林は、地域社会を飛砂や強風から守る森林として重要な役割を果たしています。

このほか、優れた景観に恵まれた鳥海山は、鳥海国定公園に指定され、獅子ヶ鼻湿原等の植物群落保護林や自然休養林、自然観察教育林等の指定も多く、保健休養の場として多くの人々に利用されています。

モニター便り



森の恵みに感謝して

大館市 丸屋 千鶴子

今年国連が定めた国際森林年です。我が国のテーマは「森を歩く」で、森林・林業再生や美しい森林づくりの推進に、さまざまなイベントを行うと伝えられています。

私たちのボランティアのぎくの会は、「米代川流域水と緑のネットワーク」に入会しており、「植樹と保育」「森林セミナー」などに参加させていただいています。

忙しさにかまけてなごりにしていた血圧が心配で、一昨年、森の案内人のご指導で「森林セラピー」を4回受講しました。場所は、十和田・八幡平国立公園の一角にある八幡平のブナ林のセラピーロードです。ブナ林の木漏れ日を仰ぎ、深呼吸しフィトンチッドをいっぱい浴び、森の香りや川のせせらぎ、小鳥のさえずりなどブナ林のささやきを五感で感じることができました。お陰さまで森からパワーをもらい、その後、血圧も安定し元気になり森の癒し効果を実感しました。森の力は偉大です。

近年、世界的に森林が破壊されているとの報道に、私も心を痛めているひとりです。地球温暖化が進行する中で猛暑や干ばつ、大洪水などの災害が頻発し、森林の重要性について認識を新たにさせられたことから、国有林モニターに応募しました。モニターは3月で終了になりますが、在任中は「RINYA」、「みどりの東北」など情報誌を毎月送っていただき、国有林について理解を深めることができました。また「白神山地世界遺産研究シンポジウム」と「現地見学会」に参加させていただきました。

現地見学会は一日巡視員として、白神山地世界遺産緩衝地域内の二ツ森登山道において貴重な体験をさせていただきました。はじめての白神山地は好天に恵まれ、紅葉の美しい春秋林道を通り、管理局の職員の方からブナ林の生育や生息する動植物について懇切丁寧な説明を受け、大いに勉強になりました。ありがとうございました。



八幡平熊沢国有林で行われた「ふるさと森林づくり植樹祭」にもご案内いただきました。私は、所用があつて当日出席できませんでしたが、のぎくの会から10人参加させていただき、宮脇昭横浜国立大学名誉教授のご指導で11種類の広葉樹を植樹したということで、参加した会員は「よい経験になった」と話していただきました。

森林への理解を深めるために、私たちに何ができるか、森林の恵みに感謝しながら、これからも折りにふれ森林との絆を深めたいと思う今日この頃です。

美しい もり 森林づくり

(地域発案システムの取組)

先人の遺産である庄内砂丘
クロマツ林等の保全活動
～地域在住外国人を対象とした現地見学会を開催～

庄内森林管理署

庄内森林管理署では地域発案システムの一環として、官民一体となった庄内砂丘クロマツ林等保全活動に署を上げて積極的に取り組んできました。

庄内砂丘のクロマツ林は先人達の血の滲むような挑戦と努力により整備されたものであり、戦中戦後の過酷な状況を乗り越え現在まで受け継

がれてきたものです。

現在では、このすばらしい先人の遺産を後世に引き継ぐために、庄内地方の市町や森林関係者で構成する「出羽庄内公益の森づくりを考える会」が中心となり官民一体となった保全活動を展開しています。

平成22年度は、広報活動の一環としてこれらの活動を庄内地方に在住する外国人の人達にも知って頂くことを目的に、外国人居住者を対象とした「庄内海岸における森林環境保全活動」の現地見学会を実施しました。



地域の環境等に感心が高い参加者の皆さん

応募を開始したところ、定員に対して倍以上の申込みがあり、地域の環境や森林文化への関心の高さが伺

われました。

見学会当日は、最初に、「万里の松原」に向かい、復活させた「奥の細道古道」を散策し、中国から贈答されたサンザシの植栽地を見学すると、参加者は海岸林の中で立派に育っている姿に感激していました。



「万里の松原」での説明

次に海浜公園に移動して、展望台から庄内海岸林の最前線を守っているクロマツ林を見学しました。酒田市の観光ガイドも勤めているNPOの砂山理事長の説明では、白砂青松の風景が34kmに渡って健全に保全されている実態に驚いていました。

その後、鳥海山に向かい、大平山荘の展望台から庄内海岸林の全貌を



参加者による記念撮影

見学しました。ここでは、当署の治山係長が国有林の海岸砂防について説明し、県の担当者が民有林の海岸砂防について説明を行いました。

最後に、鳥海山の伏流水「胴腹の滝」を見学して帰途につきましたが、参加者は、地域が一体となって先祖から受け継いだ遺産を守っている姿に感動した様子で、美しい風景の中にも大変な歴史がある事に驚いていました。

参加者からは、日本に溶け込むためにもっと地域の歴史を学びたいとの意見も出され、今回の見学会が一つの契機になって日本の森林文化についてさらに理解を深めてもらうことを期待しています。

林木育種の低コスト造林への挑戦

～その3 エリートツリーで実現する東北林業のイノベーション～

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

星比呂志、宮下智弘、織部雄一郎

林木育種の低コスト造林への挑戦の3回目では、現在開発中のエリートツリー（超優良品種）を、新しい林業システムの中で使って、革新的な東北の林業を実現するための方法について説明します。

(1) エリートツリーだからできる新しい林業システム

スギのエリートツリーは、成長が早い（1年で1m）収量が多い（材積1.8倍）、材質がよい、雪に強い（根曲がりほとんど無い）、生存率が高い（多雪地でも10年後の生存率8割以上）等々のこれまでの種苗にはない優れた特徴があります。エリートツリーの優れた特徴を利用すれば、次のような新しい林業システムが可能となります（図1）。

- 育苗期間 ♡ 1年（受注生産が可能）
- 伐採、造林 ◎ いつでも連続実施
- 植栽本数 ♡ 1,000本/ha
- 下刈 ♡ ゼロ
- 間伐 ♡ ゼロ
- 収穫材積 ♡ 8割アップ
- または伐期短縮 ♡ 30年

図1 エリートツリーによる新しい林業システム

育苗期間1年については、エリートツリーの優れた特性とキャビティーコンテナの優れた特性で実現します。伐採ー造林の連続実施については、地拵え・造林とその後の下刈作業の省力化と低コスト化に有効であることが実証されつつありますが、現在は実施時期が冬から春に限られています。コンテナ苗を使えば植栽時期が春に限定されないため、連続実施がいつでも可能になります。植栽本数1,000本、下刈・間伐ゼロ、収穫材積8割アップ、伐期短縮30年については、エリートツリーの高い性能により実現します。この林業システムにより、造林・育林コストは1/3まで削減でき、収量の飛躍的向上によって収入も増えるので、黒字経営、すなわち儲かる林業が可能になります（図2）。

新林業システムの効果は、「儲かる」だけではありません。苗木の受注生産が可能となること、伐採・造林の連続実施がいつでも出来ることは、苗木生産、素材生産及び造林の各事業の経営効率向上に大きく貢献します。また、伐期の短縮は、自分で植えたものが自分で収穫できるため、森林所有者や経営者の造林・経営意欲の向上と再造林率の向上に貢献します。

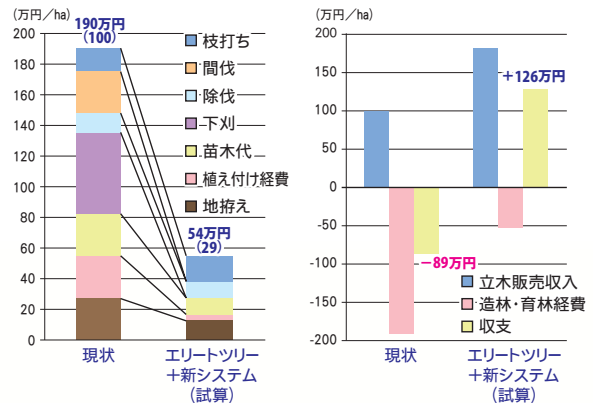


図2 エリートツリーによる新しい林業システムでのコスト(左)と収支(右)

(2) イノベーション実現に向けた技術開発

エリートツリーの開発は、すでに全国で始まっており、東北育種場では雪に負けないエリートツリーの開発を急ピッチで進めています。キャビティーコンテナ育苗技術、特に直まき実生苗の短期生産は、我々が全国のトップランナーです。現在育苗期間を15ヶ月まで短縮し、本年6月頃には実際に造林地に植栽して、成長等の実証試験を開始する予定です。下刈回数の削減については、伐採ー造林の連続実施箇所に優良品種の苗木を植栽して、下刈が1回に削減できることを実証しており（図3）、より性能が高いエリートツリーのコンテナ苗を利用すれば、下刈ゼロが実現するものと期待しています。

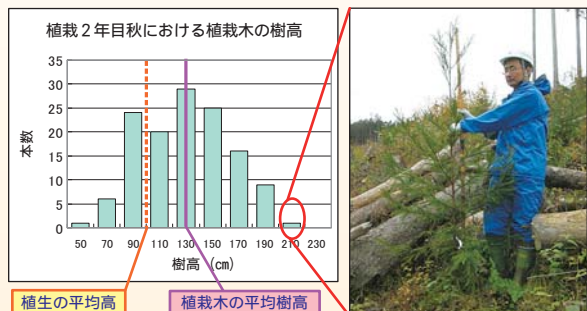


図3 伐採・造林連続実施箇所へのスギ優良品種苗（大苗）の植栽後2年目の状況。植栽木の樹高が植生の高さを超え、下刈りが完了

植栽本数、下刈、間伐等については、育林分野においてもコスト削減のための技術開発に着手しています。今後は、エリートツリーとコンテナ苗の活用等により育種・育林の連携を強化して開発を加速し、新しい林業システムによる東北林業のイノベーションを実現していきたいと考えています。

各地からの便り

平成23年 森林パトロール員 認定書交付式を開催

仙台森林管理署

1月31日(月)、当署会議室において、平成23年の森林ボランティア活動による森林パトロール員に対する認定書の交付式を開催しました。

当署では、平成13年より動植物保護や山火事防止のための森林パトロール、ゴミの収集等をボランティアで行っていた方々について、森林パトロール員として認定し活動いただいております。今年でちょうど10年目を迎えました。昨年は、1年間に1人平均約15日間活動していただきました。



署長より感謝を込めて挨拶

今年の認定者43名の内、新規認定者は3名で、残りの40名は

昨年から継続いただきました。設定当初から継続されている方も12名いらっしゃいます。

当日は、38名の方にご出席いただき、署長の挨拶の後、活動実施要領や関係法令、昨年提出されたパトロール報告記録表の記載内容と対応方針、ナラ枯れ被害の現状と対策等について、当署の各担当者から説明しました。その後の質疑・意見交換では、ゴミの不法投棄防止対策や有害鳥獣の捕獲等についてパトロール員の方々の率直な意見や疑問を聞くことができました。続いて認定書の交付に移り、パトロール員の代表者1名に署長から認定書が交付されました。

認定書交付後には、署長よりJICA森林・林業プロジェクトについての話題提供がありました。パワーポイントを使用し、画像を見ながら中国四川省での森林造成プロジェクトの様子が紹介され、認定者の方々も興味深く聞かれています。

森林パトロール員の方が森林内で腕章を付けて歩いているだけでなく、登山者の方などは安心して森林内を歩くことが出来ま

す。広大な国有林を職員だけで管理するには限界がありますので、ボランティアによる森林パトロール員の方々は国有林にとって大変貴重で有難い存在です。



パトロール員の方々との意見交換

今まで大きな事故もなく森林パトロールをしていただいておりますが、山歩きには常に危険が伴いますので、これからも安全第一でパトロールを行っていただきたいと思っております。

「2011国際森林年 記念森吉山国有林公開 フォーラム」開催

米代東部森林管理署 上小阿仁支署

2月19日(土)、北秋田市の

阿仁ふるさと文化センターにおいて、当支署主催、秋田県北秋田地域振興局と北秋田市の後援による「2011国際森林年記念森吉山国有林公開フォーラム」を開催しました。

このフォーラムでは、「森吉山における森林レクリエーション利用の未来像を考える」をサブタイトルとして、ブナ林、樹水、高山植物、名瀑の鑑賞やスキーなど、四季を通じて多種多様な楽しみ方があり、県内外から多くの方が訪れる森吉山を対象として、森林レクリエーション利用をさらに進めるための課題や展望について語り合いました。



フォーラム会場

当日は、協賛頂いた「うまい！を明日へ！プロジェクト推進委員会」によるツアーが計画され



好天に恵まれた樹氷鑑賞

たこともあり、200名近くの来場がありました。最初に、秋田市在住のフリーライター藤原優太郎氏より、「森吉山の魅力再発見」と題した基調講演があり、自然豊かな魅力あふれる森吉山についての説明・紹介がありました。

次に、NPO法人冒険の鍵クーン村田理事長、秋田内陸縦貫鉄道榎齊藤課長、東北森林管理局伊藤企画官より、日頃行っている活動の紹介や今後の取組についての提言等があり、その後、これら4氏に来場者をまじえた公開ディスカッションを行いました。

フォーラム終了後は、来場された方々の多くが、好天に恵まれた森吉山風景林の樹氷鑑賞を楽しまれたようです。

ミニコラム



へえ～
そうなんだ

カタクリ(ユリ科) キクザキイチリンソウ(キンポウゲ科)
オトメエンゴサク(ケマンソウ科) スミレサイシン(スミレ科)

岩手北部森林管理署 技術専門官 松尾 亨



3月に入ると春の兆しを感じる日もあり、三寒四温を実感してきました。今回はまだ少し先ですが、春の林床を彩る4種類を紹介します。

いずれもブナやコナラなど広葉樹の開葉前の明るい林床を利用し、開花・受粉を終えてしまうスプリング・エフェメラルの代表種です。

ピンクの花のカタクリは、球根から片栗粉を取ったことが由来で、球根は深く30cmくらい地下にあります。若葉はおひたしで食します。キクザキイチリンソウは、花弁の色が白か

↑カタクリ
ら紫まで変化があり目を楽しませてくれますが、アルカロイド系の毒があります。オトメエンゴサクも花の色に青・赤紫など変化があり、サクソホンに似た花弁が特徴です。以前はエゾエンゴサクと呼んでいたものを、最近分類が変わって、東北地方に生育しているものと、北海道に生育するものを分けたようです。スミレサイシンは、葉の形がウスバサイシンに似ていることが由来で、5弁の淡紫の花と深緑の葉が清楚です。ルーペで観察すると、唇弁の筋が魅力的な花です。



↑オトメエンゴサク



↑キクザキイチリンソウ



↑スミレサイシン

春の林床を彩る花たちは、越冬から目覚めた蝶や蜂のエネルギーとなり、新たな命の営みを繰り返していきます。私達もこころのエネルギーをいただきに「森を歩こう」
国際森林年！

マタギ文化が 息づく森を守る

置賜森林管理署
舟渡森林事務所

阿部 耕 士



私の勤務する舟渡森林事務所は、山形県の南部に位置する小国町にあり、飯豊連峰、朝日連峰といった雄大な山並みに包まれ、ブナの森をはじめとする森林が広がる自然豊かな町です。



森林面積が町の90%を占め、そのうち80%がブナの占有率の高い天然広葉樹林です。

ブナの森は、木の実、山菜、キノコ、溪流にすむイワナなどの山の幸や川の幸を育み、豊かな生態系を形成しています。



ブナの森の夕暮れ

私は、この森林事務所です約8,374haの国有林を管轄していますが、約7,290haが原生的な森林生態系の保存を目的とした「朝日山地森林生態系保護地域」に指定されており、まさに『自然の宝庫』です。

小国町について、もう少し紹介したいと思います。

小国町は全国でも有数の「豪雪地帯」であり、多い

ところでは積雪5mを超えるところもあります。

事務所の周りも2mを超える雪の壁が出来ており、「豪雪」の名前は伊達ではないと実感しています。

それから、今では全国的にも数が少なくなってしまったマタギ文化が今も息づいています。

マタギは独特の山言葉を使い、厳しい戒律を守りながら集団での伝統的な狩りを繰り広げ、ツキノワグマなどの獣を捕ったり、山菜や木の実を採取したりしながら生活してきた人たちのことです。

狩りをする時は国有林に入山するため、昔から森林事務所とのつながりも深く、「土日、山に入るが、森



今に伝わるマタギの文化

から、森林官も行がねが」と、誘われることもたびたびです。

また、マタギの方々との交流が年に何回もあり、交流会では熊鍋、ウサギ鍋など、普段は食べることがない珍しい鍋もご馳走になりました。

このように自然豊かな小国町ですが、最近ではナラ枯れやウエツキブナハムシの食害が猛威を振るっています。

このことと関係するのかわかりませんが、去年は里にクマが大量に出没しました。森林事務所の近くにも出没したので、他人事ではありません。

これからも、林野巡視を徹底し、地元自治体や関係団体、住民の方々の協力を得ながらナラ枯れなどの森林被害の防除等に積極的に取り組み、生態系保全管理の一役を担っていきたいと考えています。

我が署の隠れた名所

津軽森林管理署金木支署

出来島の 最終氷期埋没林



樹木の根

青森県津軽半島の七里長浜出来島海岸は津軽国定公園に指定されており、そこに約1 kmにわたって埋没林があります。この埋没林は平成6年9月に約2万8千年前の地層から発見されたもので、最終氷期後期の極寒期に洪水などの急激な環境変化によって針葉樹が水没し、その根が水分により、真空パックされたため腐らずに残ったものと考えられています。また、樹種はエゾマツやアカエゾマツ等の針葉樹であることなどもわかっています。

青森県津軽地方へお越しの際はあなたも出来島の埋没林を訪れて、その歴史に思いを馳せてみませんか。



交通
アクセス

JR五能線木造駅より車で20分。
駐車場から現地まで徒歩2分。

お問い合わせ先

〒037-0202 青森県五所川原市金木町芦野200-498

電話番号：0173-53-3115、050-3160-5875 FAX：0173-53-3197